

第26回 支店長のわがまち紹介



茨城県稲敷市

野菜工場・スポーツ振興と住みたくなっちゃ♡まちづくり

ミルクィクィーン収穫祭 写真提供：稲敷市

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第26回は、稲敷市です。筑波銀行は、稲敷市内に2か所3か店の営業店を設置し、稲敷市の皆さまと密接な関係を築いています。江戸崎支店長の黒田健一が、稲敷市長 田口久克氏、副市長 内田久紀氏にお話を伺いました。

●稲敷市が一番と考えていること、自慢できることはありますか

本市は穏やかな気候で雪も少なく、平坦な地形で可住地面積は茨城県で4番目に広いことが特長です。基幹産業は農業です。特に、稲作が盛んで、コメは市内で最も生産量が多い作物です。ミルクィクィーンの作付けが多く、一番おいしい品種だと感じています。茨城県青果物銘柄産地^{※1}に指定されているのが「江戸崎かぼちゃ」と「浮島れんこん」です。江戸崎かぼちゃは指定産地の第一号で、昭和57年に指定されました。

新たな名産は、浮島地区で栽培している非常に甘くておいしいトウモロコシ「ゆめのコーン」です。1株に1つしか実らせない栽培方法のため手間がかかって収穫量も少なく、旬は6月中旬ごろの短い期間に限られるため、浮島の直売所等に出向かないと買えない貴重な作物です。市では江戸崎かぼちゃ、浮島れんこんに並ぶブランド野菜として育てたいのですが、一定の流通量も確保しなくてはならず、難しい状況です。

平成27年3月22日に市制施行・合併10周年を迎え、記念のマスコットキャラクター「稲敷いなすけ」が全国各地から795点もの応募の中から誕生しました。イベントに参加し、そのかわいらしい姿から大変な人気者となっています。



稲敷いなすけ
写真提供：稲敷市

また、平成27年5月1日から地域おこし協力隊が就任

しました。茨城県外から来た男性3人女性1人の4人で、市内に居住し、「稲敷いなすけ」を活用したPR活動や移住・定住の相談を行います。非常に元気が良く、職員も見習わなければならない点がたくさんあります。活動の様子は新聞等に多数報道されています。

●今後の展望についてお聞かせください

本市は平成26年5月に日本創生会議が発表した消滅可能性都市に入っており、これを機に、少子化や人口減少をいかに食い止めるか検討するため、人口減少対策プロジェクトチームを発足させました。平成27年3月には、「雇用」、「居住」、「子育て・教育」、「情報発信」を4つの柱とし、これらの施策を一元的・総合的に取組む「いなすきに住みたくなっちゃ♡プラン」を策定しました。市役所の政策とは思えない斬新な名称は入庁1年目の職員が名づけました。本市は入庁間もない職員も政策を検討する重要な仕事に関わらせるようにしており、このプランを策定したプロジェクトチームは部長級職員と若手職員から構成されています。現在、政策を具体化させ、予算をつけて進めています。人口を増加させることは、難しいかもしれませんが、何とか人口減少に歯止めをかけようと、職員一丸となり取り組んでいるところです。また、このプランをベースにして、現在国が進めている地方創生事業の要となる地方版総合戦略の策定も進めています。

圏央道の整備も進んでいます。平成27年6月7日には常磐道と東関東道がつながり、これにより人と物の新しい流れが生まれました。東北道や

※1 茨城県青果物銘柄産地制度において、高品質な農産物を生産し、その信頼性・安全性が市場で高く評価され、多様化する実需者ニーズに対応できる、本県を代表する産地を茨城県青果物銘柄産地として指定しています。生産者・出荷組織・市町村・関係機関が連携して産地の発展に取り組み、銘柄推進産地として1年以上推進したのち、銘柄産地の指定要件を充たす産地が指定を受けられます。現在、銘柄産地49産地と銘柄推進産地29産地が指定を受けています。(茨城県ホームページより)



田口市長

内田副市長

黒田支店長

中央道などとも結ばれば、本市へのアクセスはますます向上し、首都圏から企業を誘致するための好条件になります。稲敷ICから近い江戸崎工業団地に、コメリ茨城流通センター（北星産業株式会社）、株式会社ダブルユー（婦人靴）、城東テクノ株式会社（建物のキソパッキン施工）の3社が進出しています。

平成25年に廃校となった新東小学校の校舎を野菜工場とすることが決定しました。一般社団法人TWマネジメントと提携し、教室を密閉しLEDなどの人工光でレタスやバジルなどの葉物野菜を養液栽培し、ペーストなどに瓶詰め加工して出荷する計画です。将来的には、市内の農家からイチジクやマッシュルームなどの農産物を仕入れて一緒に加工し、本市のブランドに育てていきたいと考えています。

また、学校法人タイケン学園と提携し、閉鎖する保健センターを改装し、ゴルフ部の女子選手の合宿所や寮として提供します。同学園は、利根町で日本ウェルネススポーツ大学を、つくば市で日本ウェルネス高校を運営しています。提携により、本市は定住人口の確保とスポーツ振興、公共施設の有効利用を図ることができ、同学園は中高大一貫でトップ選手を養成する拠点が確保できます。本市には9か所ものゴルフ場があり、練習場所は充分です。2020年の東京五輪に本市からゴルフ選手を輩出することが夢です。また、本市は萩本欽一氏が創設した社会人硬式野球クラブチーム「茨城ゴールデンゴルド」の本拠地です。選手は本市に居住しながら、プロ野球選手を目指して活動しており、その実力は高く、全日本クラブ野球選手権大会で3度も

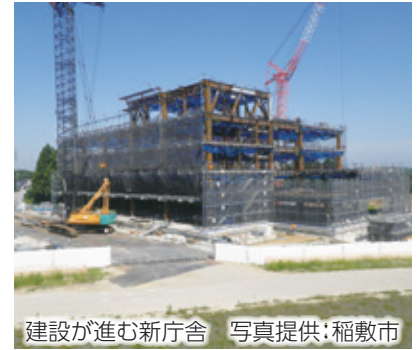


整備が進む圏央道(稲敷東IC付近) 写真提供:稲敷市

優勝しています。監督の片岡安祐美氏は本市のふるさと大使に就任してもらっています。

新庁舎を県立江戸崎西高校跡地に建設中で、平成28年3月完成、5月の連休後に開庁する見通しです。隣には美浦村と稲敷市を管轄する稲敷広域消防本部いなほ消防署が既に完成し、稼働しています。新庁舎と消防署を中心に新しいまちが出来ることを期待しています。

本庁機能は新庁舎に移されますが、市民サービスの維持のため、東庁舎を支所として、新利根庁舎と桜川庁舎は地区センターとして引き続き活用する予定です。また、利便性を高めるために、日曜日に開庁し、コンビニでも各種の証明書等が取得できるようにする予定です。



建設が進む新庁舎 写真提供:稲敷市

子どもの減少により、小学校の統廃合も進めなくてはなりません。新利根地区については太田小学校、柴崎小学校、根本小学校を統合し、昨年4月に新たに新利根小学校を開校しました。新しい校舎も完成し、子ども達は素晴らしい教育環境の中で学校生活を送っています。また、来年4月には、江戸崎地区の鳩崎小学校、君賀小学校を江戸崎小学校へ統合する予定です。桜川地区、東地区についても順次進めます。稲敷市の未来を担う子ども達のために、教育環境の整備についても力を入れています。

このように、稲敷市は大きく動いています。今後とも、総合計画に掲げている「みんなが住みたい素敵なまち」の実現に向けて、市民の皆様と共にまちづくりを進めてまいります。

このように、稲敷市は大きく動いています。今後とも、総合計画に掲げている「みんなが住みたい素敵なまち」の実現に向けて、市民の皆様と共にまちづくりを進めてまいります。

●筑波銀行に期待することはなんですか

「いなしきに住みたくなくなっちゃう♡プラン」への金融面の支援を期待しています。市から最大100万円の補助を受けてマイホームを建築し、金融機関で住宅ローン借りた市民への金利の優遇は既に行われているので、今後は、移住して来た人が市内で創業する際、資金の金利を優遇する取組みにも期待しています。

地域の活動には、例えば祇園祭では日中から行員がそろいの浴衣を着てお客さまを迎えて祭りの話題を提供し、業務終了後に踊りに参加するなどの協力をしてもらっており、今後も地域貢献に期待しています。